

バナナ生態調査(予報)*

四 蔵 昭 夫

(鹿児島県果樹試験場)

SHIKURA, A.

Ecological Studies on the Banana Plant. (Preliminary Report)

奄美大島におけるバナナ栽培の基礎資料を得るとともに栽培法による台風回避の可能性を検討するために本調査を計画した。

材料及び経過

同一圃場の仙人種の吸芽のうち、外観的に略々發育程度の揃った、現地での所謂良苗(幹長45~55cm)20本を1958年4月23日名瀬市浦上県農試大島支場の圃場に定植し標準的栽培をなした。台風害その他の障害によつて6本は調査から除外した。気温は1959年2月平年より2.5°C高く、1958年8月には殆んど降雨なく旱魃状態になつたのが目だつた。

調査結果

抽苔期の早晚によりA, B両グループに分けて整理した結果は次のとおりである。

第1表 生育概況

抽苔順 株番号	定植期		抽苔期			開花期		収穫期		定植 株数	抽苔 株数	定植 株数
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	日	日	日	
1	1958.4.23	1959.4.1	4.9	7.28	343	118	461					
2	"	"	5.5	5.14	8.29	375	116	491				
3	"	"	5.12	5.18	"	382	109	491				
4	"	"	5.13	5.19	"	383	108	491				
5	"	"	5.20	5.28	"	390	101	491				
6	"	"	5.29	6.5	9.5	399	99	498				
7	"	"	6.28	7.5	9.30	429	94	523				
8	"	"	7.5	7.12	"	436	87	523				
9	"	"	7.8	7.14	10.13	439	97	536				
10	"	"	7.11	7.16	"	442	94	536				
11	"	"	7.15	7.21	10.16	446	93	539				
12	"	"	7.18	7.26	"	449	90	539				
13	"	"	7.20	"	"	451	88	539				
14	"	"	8.18	9.3	1960.1.20	490	145	635				

第2表 抽苔時の各部生育状況

グループ	項目	抽苔期	葉数		幹長		幹周		草丈		抽苔までの 新葉数	備考
			年月日	枚	cm	cm	cm	cm				
A	B	1959.5.5~29	10.0	209.0	63.7	407.8	35.4	5株平均				
		7.5~18	11.4	249.2	71.0	489.4	43.0	"				

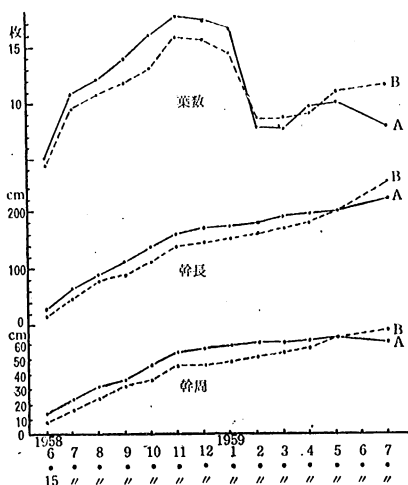
第3表 抽苔期と果実の状況

グループ	項目	抽苔期	全果重		果実重		果数		果肉重割合		備考
			年月日	g	g	枚	枚	g	%		
A	B	1959.5.5~29	11,652.5	10,505.0	7.0	106.3	98.5	68.0	4株平均		
		7.5~18	18,283.0	16,617.0	8.8	144.8	115.8	69.4	5株"		
		4.1	7,095.0	5,825.0	6.0	92.0	63.3	4月抽苔は 14株中1株			

摘要及び考察

仙人種の吸芽を1958年4月23日定植した場合、次

第1図 時期別生育状況



年の5月上旬~7月下旬にかけて抽苔開花し、以後3.5~3ヶ月で収穫期に達した(第1表)。即ち定植後大部分の株は16~18ヶ月で収穫できた。これは台湾北部の平均18ヶ月と大した差はない。

抽苔期は初期生育の差によつて左右されるようであるが(第1図)、抽苔時の生育は、晩れて抽苔した株の方が遙かに進んであり(第2表)、これは果実の収量・品質にも強く影響する(第3表)。即ち7月中の抽苔株は植物体も大きく気温も高いので果実の肥大順調で品質もよく、収量・品質の点からみると7月~8月初に抽苔させるのがよいことになる。しかしこの時期は一旦台風に襲われた場合の損害は致命的である。

一方、台風をさけて7月末頃までに収穫するためには4月上旬の抽苔が必要で、当時は気温も低く成熟日数も長いので果実が障害を受ける機会も多く優良果の生産が困難なようである。この調査では14株中1株だけが4月に抽苔したが、房も小さく品質も不良であつた。

以上の結果からみて4月上旬に抽苔させ不良環境をカバーしてある程度の品種と相当な収量を得るためには、(1)苗の生育促進法、(2)第1回収穫後の後継苗の選抜法等について今後更に検討する必要がある。

*鹿児島県農試大島支場業績